

◆平成29年度 友の会 決算

〔平成29年4月1日～平成30年3月31日〕

(収入の部)

項目	決算額(円)	備考
会費	358,000	2,000円×179人
特別企画展収入	963,523	グッズ販売手数料収入等
雑入	4	預金利息
前年度繰越金	377,620	
合計	1,699,147	

(支出の部)

項目	決算額(円)	備考
入館料	88,400	会員証(400円×181人)、企画展招待券(24枚)
特別企画展関連経費	998,623	グッズ販売業務委託料等
自主・共催事業関連経費	73,543	朗読会謝礼・著作権使用料、会員交流会経費
印刷費	74,412	友の会会報(年2回)印刷代
郵送料	81,294	切手、往復ハガキ、ゆうメール等
消耗品費等	1,404	名札(会員交流会参加者用)
合計	1,317,676	

(収入の部)1,699,147円 - (支出の部)1,317,676円
= 381,471円〔次年度繰越額〕

◆平成30年度 友の会 予算

〔平成30年4月1日～平成31年3月31日〕

(収入の部)

項目	予算額(円)	備考
会費	400,000	2,000円×200人
特別企画展収入	800,000	グッズ販売手数料収入等
雑入	10	預金利息
前年度繰越金	381,471	
合計	1,581,481	

(支出の部)

項目	予算額(円)	備考
入館料	200,000	会員証(400円×200人)、企画展招待券(700円×100人、500円×100人)
特別企画展関連経費	800,000	グッズ販売経費(人件費、商品仕入れ代、搬送料等)
自主・共催事業関連経費	30,000	朗読劇出演謝礼等
会議費	10,000	役員会お茶代等
印刷費	80,000	友の会会報印刷等
郵送料	200,000	切手、往復ハガキ、ゆうメール等
消耗品費等	50,000	消耗品等購入
予備費	211,481	
合計	1,581,481	

(収入の部)1,581,481円 - (支出の部)1,581,481円 = 0円

「文学館と伴走を」 三十年度 友の会総会

北九州市立文学館友の会の平成三十年度総会が六月十四日に文学館交流ステーションであり、二十九年度事業報告と決算、三十年度事業計画と予算を承認しました。

総会には二十五人が出席。後藤みな子会長はあいさつで、自身が会長を務める北九州文学協会が文学賞授賞式を毎年、



総会の様子(後藤会長(右)と加賀美副会長)

友の会会報

北九州市立文学館

第7号

平成30年8月



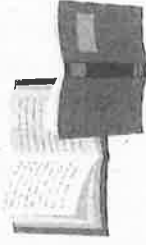
朗読劇の様子



朗読の様子

市立文学館で開いていることに触れ「全国各地から受賞者が見えるのが、みな『北九州にこんな文学館があることがうらやましい。来てよかった』と言ってください。いつもそれを誇りに思う」と紹介。「文芸書が読まれない時代にあつて、市立文学館は世相に迎合することなく、真に文学とは何かを、ふれずに問いかけてくれている。一緒に支え伴走していきたい」と会員の協力を呼びかけました。

総会後、劇団「青春座」の和田正人さんが「富島松五郎伝」を、久野晴美さんと井上智之さんが葉月けいこさん作の「三途の男」を朗読。大きな拍手を浴びました。



第26回特別企画展 映画展

「まど・みちおのうちゅう」

平成30年7月21日(土)～9月10日(月)

主催 北九州市立文学館
協賛 (公財) 福岡県立美術館
企画協力 NIKKサービステンター



まど (51歳)
1977 (福岡市美術館蔵)

第27回特別企画展 児童文学展

「描かれた西郷どん展」

～アート、文学、サブカルから～

平成30年10月27日(土)～12月16日(日)

主催 北九州市立文学館
企画制作 NIKKサービステンター
かごしま近代文学館



文学館 特別企画展

**「まど・みちおのうちゅう」
& 「描かれた西郷どん展」**

今年の特別企画展のご案内です。夏(七月二十一日～九月十七日)に「まど・みちおのうちゅう」、秋(十月二十七日～十二月十六日)に「描かれた西郷どん展」が開催されます。

「まど・みちお」さんは、平成二十六年に一〇四歳でこの世を去るまで、生涯にわたって詩を書き続け作品数は二千を超えています。どなたも、一度は目にしていると思います。

「まど」は窓が好きだからつけたそうですが、その窓は、皆さんに向けて開かれているのです。どうぞ、その独特の宇宙観を堪能してください。

「西郷隆盛」は不思議な人です。肖像写真は一枚も残っていないのに、だれもが、自分の西郷像を心の中に持っているのではないのでしょうか。例えば、海軍寺島五郎は西郷を「理想を目指し革命を繰り返す永久革命家」だと言っています。永久革命家と言えば、世界では「チエ・ゲバラ」、日本では「西郷隆盛」が頭に浮かびますが、いずれも志半ばで、悲劇的な死を遂げます。ただ、その悲劇的な死こそが、その志を完成させたとも言えます。「西郷隆盛」という虚像が、一人歩きを始めたのです。今、大河ドラマの「西郷どん」が放送中ですが、これは、林真理子さんの「西郷隆盛」です。皆様の西郷隆盛を、秋の特別企画展で再確認してみたいはいかがでしょう。(加賀美 禮之)

映画と文学

**北九州市立文学館と
国際映画祭**

今年の五月、カンヌ国際映画祭では枝裕和監督作品「北九州市出身、文学館」子どもノンフィクション文学賞選考委員でもあるリリー・フランキーさんご主演の「万引き家族」が最高賞のパルムドールに輝きました。世界三大映画祭(カンヌ・ヴェネツィア・ベルリン)で日本作品、十六年振りの最高賞ですが、ここ北九州市立文学館にヴェネツィア映画祭のグランプリ「金獅子賞」の権があるのを皆さまはご存知でしょうか。今から六十年前一九五八年に「無法松の一生」(監督稲垣浩・主演三船敏郎・高峰秀子)が受賞し、その原作者として岩下俊作氏に贈られた権が二〇一六年「文学館文庫・岩下俊作集」刊行にあたり遺族から文学館に寄贈されたものです。

岩下俊作の「富島松五郎伝」(後に「無法松の一生」と改題)くらい度々映画化、舞台化され愛された作品はありません。先の作品の他に、一九四三年(監督稲垣浩 主演阪東妻三郎・園井恵子)、一九六三年(監督村山新治 主演三國連太郎・淡島千景)、一九六五年(監督三隅研次 主演勝新太郎・有馬稲子)があります。阪妻さんは公開当時昭和館にお越しになりました。また演歌歌手の中村美津子さんは一昨年昭和館で「無法松の恋」の新曲発表会を行いました。先月には三村順一監督の『君は一人ぼっちじゃない』(「無法松の一生」へのオマージュ作品)の製作発表会も当館で行われ、その前後に阪妻版「無法松の一生」を上映しました。三村監督の現代版「無法松」の公開も楽しみです。



北九州市立文学館所蔵

文学館ホームページ芸術員日より「岩下俊作」の頁も是非お読み下さい。また、金獅子賞の権は、八月三十一日まで文学館二階常設展示室で展示中です。

(小倉昭和館館主 樋口智巳)

おすすめの本

『シネマのある風景』

山田 稔著 みすず書房
一九九二年八月五日発行



精緻な文章で読者を魅了してやまない山田稔は、一九三〇年に旧門司市で生まれる。「シネマのある風景」の冒頭で、少年の日に門司港を臨む丘の中腹から

外国行きの大形商船をまぶしく眺め、遠い異国への憧れを胸のうちに育んでいったと、望郷が語られている。

少年の一家は日米開戦の翌年に京都へ転居し、長じて京都大学で仏文学を学び、後に同大学教養部教授となる。「VIKING」の同人となり、エッセイ集や日仏翻訳書も多数著す。パリでの体験を綴った『コマルタン界限』で一九八一年に芸術選奨文部大臣賞を受賞。

『シネマのある風景』には、映画好きの作者が京都・大阪・パリの小さな映画館でみたという主として一九六〇年代から一九九〇年代にヨーロッパで制作された映画約一三〇本にまつわる短いエッセイが収録されている。とりあげられた映画には巨匠の大作のたぐいはない。「無駄な力のぬけたひつそりとした作風ながら、丁寧に描かれた細部がやわらかな光を放っている作品が多い」と言う。

作者は、男も女も老いも若きも子どもたちですら、体の芯にひそむ深い孤独を背負いながら自立を願い、他者との結びつきを失うまいとして生きている人間のドラマを、スクリーンでくり返してみてきたと述べている。さらに自分が好んでみる映画のなかでは「なぜ歎きの声でしか希望は語られないのか。希望にすがり幸福を求めながらも、人間は不幸に耐える姿でしか美しく描きえないかのように」と自問する。そして人生のようなシネマをみつづけ、シネマのような人生を生きると密やかに言う。

映画好きの方にはこたえられない一冊だと思う。

(三村保子)



リレー
エッセイ

俳誌「青嶺」 創刊二百号記念展を終えて

俳誌「青嶺」主宰 岸原 漣行

月刊俳誌「青嶺」が創刊二百号を迎えたのを記念し、去る三月一日から四月八日に亘り北九州市立文学館に於て、これまでの歩みを顧み、今後さらなる発展を期し記念展を開催。併せて、師系の野見山朱鳥先生、「青嶺」の前誌「地平」見玉蘭草先生の業績を称え、多くの作品を会員と共に展示させて頂きました。

福岡県ことに北九州市は、優れて俳人を生み今日も活動が盛んなまちです。その伝統を引き継ぐ結社「青嶺」は、北九州地域を中心に全国各地に会員を擁し、創作活動を推進しております。

世界で最も短く美しい詩といわれる俳句。それは日本の移り変わる四季と、豊かな自然に育まれた優れた伝統文化で、若者男女子とも選にいたるまで、親しみ励むことができる国民的文学ともいわれます。さらに、今や愛好者は世界七十数か国にも広がり、ユネスコの世界文化遺産登録の推進にも及んでいます。

この度は北九州市の共催及び、多くの諸団体からの後援を得て開催。海外や全国各地からの人々も含め、千三百人余りの多くの入館者を得、お蔭様で好評盛会に終える事ができましたことを感謝し、今後さらに文化振興に寄与することができれば幸に思います。

会員投稿

静かなるドンから ボルガ川溯行の船旅(1)

弁護士 清原 雅彦

私は四十年近く毎年のように中央アジアに旅して、今年は四月末から五月十三日まで実に二十一日間、静かなるドンと呼ばれるドン川から運河でボルガ川に出て、一旦南下してアストラハンに至りリターンして川を溯行してモスクワに至る船旅、リバークルーズに行つて来ましたので、二回に分けて、その話をさせて頂きましよう。

ボルガ川はロシアの大河です。日本人は「ボルガの船民歌」をすぐ連想するでしょうがその歌は暗いし音楽的にもよく出来た歌とも思えずあまり好きではありません。ボルガ川というと、私は「ステンカラージン」を連想してほしいのです。

ステンカラージンはボルガ川下流域のドンコサック族の頭として一族を率いて農奴解放を進めていたのだが、ペルシャの姫(イラン人)の美貌に溺れて初心を忘れかけたので一族が反抗して、その姫をボルガ川に沈めた、という話でした。

そして見所は、ボルゴグラーブ(旧スターリングラーブ)です。緒戦はドイツ軍が連戦連勝し、市街地の九〇%以上を占領したものの、最終的にはソ連軍の反撃により、ドイツ軍は降伏しました。第二次世界大戦の転機となった重要な場所なのです。戦場となったママエフの丘には巨大な母

なる祖国像(地上85m)と慰霊の施設などがあり、戦勝パノラマ館には巨大な戦の壁画などが描かれていました。

文学の話もしなければなりません。ボルガ川の途中で色々な町に寄港するのですが、それらの町では中心部に公園があつて市民の憩いの場所になっています。その公園や通りには「プーシキン通り」といった名前が付けられていたりしています。勿論プーシキンの銅像もあり、とても美しいし、文化的雰囲気にも溢れています。プーシキン通り、プーシキン公園は結構あちこちにあつたのですが、他の作家の名は、例えばドストエフスキーやトルストイは勿論チエホフなどありませんでした。

ボルガ川、ボルゴグラーブ(スターリングラーブ)を訪れ、その景観に感動し、歌、歴史に思いをはせた旅でした。(次号に続く)

